平成26年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年12月25日

上場会社名　株式会社 パルコ　　上場取引所　東
コード番号　8251　URL　http://www.parco.co.jp/
代表者　（役職名）代表執行役社長　（氏名）牧山　浩三
問合せ先責任者（役職名）執行役財務部、経理部、事務統括部担当　（氏名）野口　秀樹　TEL 03-3477-5791
四半期報告書提出予定日　平成26年1月8日
配当支払開始予定日　—
四半期決算補足説明資料作成の有無　：　有
四半期決算説明会開催の有無　：　無

（百万円未満切捨て）

1. 平成26年2月期第3四半期の連結業績（平成25年3月1日～平成25年11月30日）

(1) 連結経営成績（累計）　（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年2月期第3四半期	194,069	0.1	8,698	18.5	8,560	23.7	4,793	26.4
25年2月期第3四半期	193,855	3.1	7,341	19.3	6,922	15.4	3,793	30.7

（注）包括利益　26年2月期第3四半期　5,323百万円　（39.2%）　25年2月期第3四半期　3,824百万円　（44.8%）

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年2月期第3四半期	47.25	—
25年2月期第3四半期	41.80	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年2月期第3四半期	228,618	107,080	46.8
25年2月期	206,243	103,573	50.2

（参考）自己資本　26年2月期第3四半期　107,080百万円　25年2月期　103,573百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年2月期	—	9.00	—	9.00	18.00
26年2月期	—	9.00	—		
26年2月期（予想）				9.00	18.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　無

3. 平成26年2月期の連結業績予想（平成25年3月1日～平成26年2月28日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	267,900	1.2	12,200	12.7	11,900	15.2	6,350	24.9	62.59

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動） ： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 ： 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 ： 有
② ①以外の会計方針の変更 ： 無
③ 会計上の見積りの変更 ： 有
④ 修正再表示 ： 無

（注）「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第10条の5に該当するものであります。詳細は、添付資料P.4「2．サマリー情報（注記事項）に関する事項（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	26年2月期3Q	101,462,977 株	25年2月期	101,462,977 株
② 期末自己株式数	26年2月期3Q	2,285 株	25年2月期	11,635 株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	26年2月期3Q	101,458,023 株	25年2月期3Q	90,737,312 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は実施中であります。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）
本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.4「1．当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。
（四半期決算補足説明資料の入手方法について）
四半期決算補足説明資料はTDnetで同日開示しています。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）連結経営成績に関する定性的情報 …… 2
（２）連結財政状態に関する定性的情報 …… 4
（３）連結業績予想に関する定性的情報 …… 4
２．サマリー情報（注記事項）に関する事項 …… 4
（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 …… 4
（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 …… 4
（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 …… 4
３．四半期連結財務諸表 …… 5
（１）四半期連結貸借対照表 …… 5
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… 7
四半期連結損益計算書
第３四半期連結累計期間 …… 7
四半期連結包括利益計算書
第３四半期連結累計期間 …… 8
（３）四半期連結キャッシュ・フロー計算書 …… 9
（４）継続企業の前提に関する注記 …… 10
（５）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 …… 10
（６）セグメント情報等 …… 10

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）連結経営成績に関する定性的情報

当第３四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による経済対策及び金融政策の効果により円安、株高が進行し、企業収益や高額品購入を中心とする個人消費は回復傾向が続きました。一方、海外景気の下振れが国内景気を押し下げるリスクが依然存在することから、景気の先行きには不透明感が残りました。

このような状況の下、当社グループは、都市生活のアンカーとしての存在意義を高めるため、パルコの原点である「インキュベーション」、「街づくり」、「情報発信」を具体化すべく事業を推進いたしました。

当第３四半期連結累計期間におきましては、将来の成長に向け都心部での事業拠点の拡大を図り、上野に新たに商業施設を出店することを決定いたしました。また、ゼロゲート事業につきまして、大阪に２店舗、広島に１店舗を開業した他、名古屋への出店を決定いたしました。一方、既存のパルコ店舗につきましても、周辺開発を強化し、福岡パルコ隣地での新館開業を決定した他、引き続きテーマ性を持った提案型の改装と＜ＰＡＲＣＯカード＞を軸とした営業企画・販売促進策により収益基盤の強化を図りました。

この結果、当社グループの当第３四半期連結累計期間における業績は、売上高は1,940億69百万円（前年同期比100.1％）、営業利益は86億98百万円（前年同期比118.5％）、経常利益は85億60百万円（前年同期比123.7％）、四半期純利益は47億93百万円（前年同期比126.4％）となりました。

セグメント別の状況は次のとおりです。

＜ショッピングセンター事業＞

ショッピングセンター事業の売上高は1,769億61百万円（前年同期比101.0％）、営業利益は83億84百万円（前年同期比123.1％）となりました。

株式会社パルコにつきましては、株式会社大丸松坂屋百貨店が平成29年秋に開業を予定している高層複合ビル「松坂屋上野店・新南館」に、新たに商業施設を出店することを決定し開業に向けた業務に着手いたしました。また、４月の心斎橋ゼロゲート、道頓堀ゼロゲートに続き、10月に当業態としては初の複数テナントが出店する広島ゼロゲートを開業し、いずれの店舗も街場の大きな話題となりました。さらに、５店舗目となる名古屋・栄三丁目のゼロゲートにつきましては平成26年秋の開業に向け業務を推進いたしました。

既存パルコ店舗につきましては、福岡パルコ及び隣地の土地建物の信託受益権を取得後、隣地の建物を福岡パルコの新館として建替える方針を決定し、平成26年秋の開業予定に向け「福岡新館プロジェクト」業務を推進いたしました。また、都心型店舗を中心に当第３四半期連結累計期間で全店計約38,000㎡の改装を実施し、改装ゾーンの売上高前年同期比は全店計109.0％と伸長いたしました。主な改装店は次のとおりです。

［渋谷パルコ］

オープン40周年を迎えた渋谷パルコでは、ファッションとカルチャーの融合、グローバルな情報発信をテーマに、新業態や複合業態のショップを軸として、パート１のファッションフロアを中心に改装を推進いたしました。春の改装では、新たなセレクトショップやレディスファッションショップを多数導入し、秋の改装では、国内有力モードブランドの新業態ショップを核として、パート１の１階をＴＯＫＹＯモードの発信拠点として再編集いたしました。また、２階にはカフェを併設した人気レディスブランド等を導入し、パート１でのトレンドファッションの集積を高めました。

［名古屋パルコ］

今秋の南館15周年、来年の西館・東館25周年に向け、３館体制の再編を図る改装を推進し、名古屋地区最大規模のセレクトショップ集積をさらに強化いたしました。前年１階・２階からスタートした南館の改装につきましては、春に新進のセレクトショップを３階に導入し、「デザイン」・「モード」の切り口で編集することで男女・年齢を問わず楽しめるフロアに刷新いたしました。さらに秋には４階にレディス・メンズファッションの複合ショップを導入し同テーマを強化いたしました。また、西館の３階・４階にはヤングレディスファッションのエリア初出店ショップを導入し、ファッションのトレンド提案力を強化いたしました。

［広島パルコ］

中心市街地であるパルコ周辺で商業集積が進む中、ファッションビルとしての存在感を示し、新規オープンの広島ゼロゲートとともに回遊性を高め、街の活性化につなげるべく、ファッションや身の回りアイテムのバラエティ拡充を図る大規模改装を実施いたしました。新館４階に、衣料品のみならず身の回り雑貨、生活雑貨までを複合的に揃えライフスタイルを提案するセレクトショップを導入し、都心志向の大人の男女に向けてフロアを全面的にリニューアルした他、本館１階・２階を大人の女性に向けたファッションと身の回り雑貨・アクセサリーフロアとして再編集いたしました。

営業企画につきましては、企画のターゲット軸を前年度の会員サービス拡充策により大幅に増加した＜ＰＡＲＣＯカード＞会員に据え、５月、11月の『PARTY SALE』の企画開催時に会員のオフ率を上げる等優待内容を強化いたしました。当第３四半期連結累計期間の＜ＰＡＲＣＯカード＞取扱高は前年同期比106.5%と伸長いたしました。

販売促進企画につきましては、各店舗において地域・街との繋がりを意識した企画に積極的に取り組みました。ひばりが丘パルコの20周年祭では、街に縁の深いミュージシャンをキャンペーンのメインキャラクターに起用し、ライブやトークショー、写真展等の多彩なイベントにより、お客様との交流を深めました。また、渋谷パルコで10月に第３回目を開催いたしました、次世代のクリエイターを発掘し発表の場を提供、支援するイベント『シブカル祭。』につきましては、企画が浸透してきたことや他企業とのコラボレーションを強化したことで、参加クリエイター数、イベント数、拠点数が過去最大の規模となり動員数も前年を上回りました。加えて、同様の企画を含むアートイベントをパルコ他店舗でも波及展開させ、『天神ラボ』（福岡パルコで第２回目開催）、『名古屋パルコの文化祭2013「パルコの庭」』（初開催）において地域のクリエイターを発掘し好評を博しました。

また、スマートフォンやSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の普及に伴い消費環境が急速に変化する中、新たな宣伝・販売促進手法として戦略的なWebの活用に取り組んでまいりました。パルコ全店のWebサイトリニューアルを順次進め、テナントショップブログによる情報発信やSNSを活用したテナントスタッフとお客様のコミュニケーションの活性化を支援するプラットフォームを構築した他、『渋谷ＰＡＲＣＯ40周年記念リミテッドショップ』の「楽天ブランドアベニュー」への出店や「ＬＩＮＥ」、「ショッぷらっと」、「ＷＥＡＲ」（期間限定、店舗限定による試験的運用）等のスマートフォンアプリケーションによるＯ２Ｏ（オーツーオー）施策（※）等、将来を見据えた新たな試みを積極的に展開いたしました。

なお、中華人民共和国蘇州市の当社現地法人「百楽和商業諮詢（蘇州）有限公司」につきまして、10月31日をもって「NISON CITY MALL（ニーソン シティ モール）」に関する業務委託契約が終了したことに伴い解散することを決定いたしました。

※Ｏ２ＯとはOnline to Offlineの略で、例えばWeb上（Online）でクーポンを配布しWeb外（Offline）のリアル店舗に顧客を誘導するといった、オンラインとオフラインでの販売促進活動と購買行動を相互に連携させることを指します。

＜専門店事業＞

専門店事業の売上高は130億14百万円（前年同期比106.9%）、営業利益は１億53百万円（前年同期比88.5%）となりました。

株式会社ヌーヴ・エイにつきましては、引き続き好調なＴｉＣＴＡＣ事業及びアイウェア事業が牽引し、売上高は前年同期実績を上回りましたが、前年同期より出店数が増えたことによる販売管理費の増加により、営業利益は前年同期実績を下回りました。

＜総合空間事業＞

総合空間事業の売上高は135億54百万円（前年同期比94.3%）、営業利益は２億56百万円（前年同期比62.6%）となりました。

株式会社パルコスペースシステムズにつきましては、大手取引先の受注減少により、売上高、営業利益とも前年同期実績を下回りましたが、内装、電気工事における新規クライアントの受注増加により、営業利益では当期計画を上回って推移しております。

＜その他の事業＞

その他の事業の売上高は44億27百万円（前年同期比92.6%）、営業損失は67百万円（前年同期営業損失52百万円）となりました。

株式会社パルコのエンタテインメント事業につきましては、青木豪脚本、いのうえひでのり演出『鉈切り丸』やニール・サイモン作、三谷幸喜上演台本・演出『ロスト・イン・ヨンカーズ』等の話題作を上演し好評を博しました。また、東京テアトル株式会社より運営を移管されておりました「ル テアトル銀座 by PARCO」は、５月に営業を終了いたしました。前年マルチ企画展開したコンテンツの売上の反動もあり、売上高、営業利益とも前年同期実績を下回りました。

株式会社パルコ・シティにつきましては、Webコンサルティング事業において、新規外部商業施設からの受注が増加したこと、パルコWebサイトの大規模なリニューアル受注等により、営業利益は前年同期実績を上回りました。

（注）セグメント別の業績における売上高には、営業収入が含まれております。

（２）連結財政状態に関する定性的情報

（資産、負債及び純資産の状況）

当第３四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比較して223億74百万円増加し、2,286億18百万円となりました。主な要因は、福岡パルコ及び隣地の土地建物を対象不動産とする信託受益権の取得による有形固定資産の増加等によるものであります。当第３四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末と比較して188億67百万円増加し、1,215億38百万円となりました。主な要因は、有利子負債の増加等によるものであります。純資産は、前連結会計年度末と比較して35億６百万円増加し、1,070億80百万円となりました。

（キャッシュ・フローの状況）

当第３四半期連結会計期間末では、現金及び現金同等物は前連結会計年度末と比較して75億６百万円減少し29億56百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益80億89百万円に非資金項目となる減価償却費や特別損益項目等を調整し54億円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、247億31百万円の支出となりました。これは、主に福岡パルコ及び隣地の土地建物を対象不動産とする信託受益権の有形固定資産の取得による支出等によるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、117億94百万円の収入となりました。これは、主に有利子負債による資金調達額が増加したこと等によるものであります。

（３）連結業績予想に関する定性的情報

平成26年２月期の通期連結業績予想につきましては、平成25年10月７日に発表いたしました連結業績予想から修正は行っておりません。

２．サマリー情報（注記事項）に関する事項

（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

（税金費用の計算）

税金費用については、当第３四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法によっております。

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計方針の変更

（減価償却方法の変更）

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第１四半期連結会計期間より、平成25年３月１日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

なお、この変更による当第３四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

３．四半期連結財務諸表

（１）四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （平成25年２月28日）	当第３四半期連結会計期間 （平成25年11月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	10,463	2,956
受取手形及び営業未収入金	7,675	15,795
商品及び製品	2,758	3,440
仕掛品	225	310
原材料及び貯蔵品	41	39
その他	7,833	7,969
貸倒引当金	△5	△9
流動資産合計	28,991	30,503
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	119,131	121,431
減価償却累計額	△74,664	△76,878
減損損失累計額	△1,034	△1,075
建物及び構築物（純額）	43,432	43,477
信託建物及び構築物	17,209	17,465
減価償却累計額	△2,472	△3,125
信託建物及び構築物（純額）	14,737	14,340
機械装置及び運搬具	1,395	1,406
減価償却累計額	△1,089	△1,103
機械装置及び運搬具（純額）	305	302
信託機械装置及び運搬具	16	16
減価償却累計額	△7	△9
信託機械装置及び運搬具（純額）	9	7
その他	5,597	5,946
減価償却累計額	△4,227	△4,511
減損損失累計額	△122	△132
その他（純額）	1,248	1,302
信託その他	136	138
減価償却累計額	△63	△79
信託その他（純額）	73	58
土地	43,994	46,608
信託土地	19,371	46,536
建設仮勘定	526	158
有形固定資産合計	123,698	152,792
無形固定資産		
借地権	10,949	10,949
その他	894	905
無形固定資産合計	11,844	11,855

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （平成25年２月28日）	当第３四半期連結会計期間 （平成25年11月30日）
投資その他の資産		
投資有価証券	2,924	3,537
敷金及び保証金	35,631	27,668
その他	3,365	2,461
貸倒引当金	△212	△200
投資その他の資産合計	41,708	33,467
固定資産合計	177,251	198,114
資産合計	206,243	228,618
負債の部		
流動負債		
支払手形及び営業未払金	16,278	22,977
短期借入金	5,978	8,769
未払法人税等	3,406	1,093
引当金	1,468	1,087
その他	9,243	15,753
流動負債合計	36,375	49,679
固定負債		
長期借入金	30,397	35,852
引当金	1,737	1,768
受入保証金	33,377	33,567
その他	782	670
固定負債合計	66,295	71,858
負債合計	102,670	121,538
純資産の部		
株主資本		
資本金	34,367	34,367
資本剰余金	35,124	35,129
利益剰余金	33,830	36,797
自己株式	△7	△1
株主資本合計	103,314	106,292
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	397	899
為替換算調整勘定	△138	△112
その他の包括利益累計額合計	258	787
純資産合計	103,573	107,080
負債純資産合計	206,243	228,618

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
（四半期連結損益計算書）
（第３四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　平成24年３月１日 至　平成24年11月30日）	当第３四半期連結累計期間 （自　平成25年３月１日 至　平成25年11月30日）
売上高	193,855	194,069
売上原価	164,673	164,733
売上総利益	29,182	29,335
営業収入	2,046	2,886
営業総利益	31,229	32,221
販売費及び一般管理費	23,887	23,523
営業利益	7,341	8,698
営業外収益		
受取利息	40	41
受取配当金	42	34
雑収入	224	260
営業外収益合計	307	336
営業外費用		
支払利息	501	394
持分法による投資損失	128	0
雑支出	97	80
営業外費用合計	727	475
経常利益	6,922	8,560
特別利益		
投資有価証券売却益	－	10
受取損害賠償金	569	－
その他	－	0
特別利益合計	569	10
特別損失		
固定資産除却損	748	357
減損損失	92	23
店舗閉鎖損失	－	97
その他	19	2
特別損失合計	860	481
税金等調整前四半期純利益	6,631	8,089
法人税等	2,838	3,295
少数株主損益調整前四半期純利益	3,793	4,793
四半期純利益	3,793	4,793

（四半期連結包括利益計算書）
（第３四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　平成24年３月１日 至　平成24年11月30日）	当第３四半期連結累計期間 （自　平成25年３月１日 至　平成25年11月30日）
少数株主損益調整前四半期純利益	3,793	4,793
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	17	502
為替換算調整勘定	11	21
持分法適用会社に対する持分相当額	2	5
その他の包括利益合計	31	529
四半期包括利益	3,824	5,323
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,824	5,323
少数株主に係る四半期包括利益	－	－

（３）四半期連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　平成24年３月１日 至　平成24年11月30日）	当第３四半期連結累計期間 （自　平成25年３月１日 至　平成25年11月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	6,631	8,089
減価償却費	4,541	4,365
減損損失	92	23
賞与引当金の増減額（△は減少）	△526	△536
退職給付引当金の増減額（△は減少）	89	30
受取利息及び受取配当金	△83	△76
支払利息	501	394
受取損害賠償金	△569	－
固定資産除売却損益（△は益）	267	119
店舗閉鎖損失	－	97
売上債権の増減額（△は増加）	△4,594	△8,117
たな卸資産の増減額（△は増加）	△891	△765
仕入債務の増減額（△は減少）	6,020	6,698
その他の資産・負債の増減額	734	1,860
その他	236	63
小計	12,450	12,246
利息及び配当金の受取額	83	76
利息の支払額	△630	△464
損害賠償金の受取額	1,578	－
店舗閉鎖に伴う支払額	△87	－
賃貸借契約解約に伴う支払額	－	△999
法人税等の支払額	△2,250	△5,458
営業活動によるキャッシュ・フロー	11,142	5,400
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	△300	－
有形固定資産の取得による支出	△3,590	△32,558
投資有価証券の取得による支出	△1	△56
投資有価証券の売却による収入	5	238
敷金及び保証金の差入による支出	△867	△559
敷金及び保証金の回収による収入	2,607	8,580
受入保証金の増減額（△は減少）	△244	△235
その他	△88	△141
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,479	△24,731
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（△は減少）	△795	－
コマーシャル・ペーパーの増減額（△は減少）	－	5,999
長期借入れによる収入	8,500	15,500
長期借入金の返済による支出	△12,657	△7,259
社債の償還による支出	△500	△500
自己株式の純増減額（△は増加）	229	9
配当金の支払額	△1,652	△1,826
その他	△166	△130
財務活動によるキャッシュ・フロー	△7,042	11,794
現金及び現金同等物に係る換算差額	14	29
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	1,635	△7,506
現金及び現金同等物の期首残高	7,437	10,463
現金及び現金同等物の四半期末残高	9,072	2,956

（４）継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

（５）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。

（６）セグメント情報等
Ⅰ　前第３四半期連結累計期間（自　平成24年３月１日　至　平成24年11月30日）
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	ショッピングセンター事業	専門店事業	総合空間事業	その他の事業	計	調整額（注）２	四半期連結損益計算書計上額（注）３
売上高（注）１							
(1) 外部顧客への売上高	175,198	7,370	8,792	4,541	195,902	－	195,902
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	－	4,806	5,582	241	10,630	△10,630	－
計	175,198	12,177	14,374	4,783	206,533	△10,630	195,902
セグメント利益又は損失（△）	6,811	173	409	△52	7,342	△0	7,341

（注）１　売上高には、営業収入が含まれております。
２　セグメント利益又は損失の調整額△０百万円は、セグメント間取引消去であります。
３　セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ　当第３四半期連結累計期間（自　平成25年３月１日　至　平成25年11月30日）
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	ショッピングセンター事業	専門店事業	総合空間事業	その他の事業	計	調整額（注）２	四半期連結損益計算書計上額（注）３
売上高（注）１							
(1) 外部顧客への売上高	176,961	8,206	7,738	4,049	196,955	－	196,955
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	－	4,807	5,815	378	11,001	△11,001	－
計	176,961	13,014	13,554	4,427	207,957	△11,001	196,955
セグメント利益又は損失（△）	8,384	153	256	△67	8,727	△28	8,698

（注）１　売上高には、営業収入が含まれております。
２　セグメント利益又は損失の調整額△28百万円は、セグメント間取引消去であります。
３　セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。